

平成 29 年度 横浜デジタルアーツ専門学校 学校関係者評価委員会報告書  
(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月)

## 0. 実施状況

校長指示の下、教務部長が自己評価表を作成し、教職員リーダー6名でそれぞれの項目について点検、評価を行い、取りまとめを行った。評価は、「1（不適切）～4（適切）」の4段階評価とし、併せて、可能な限り根拠や課題を明示するように努めた。

自己評価を実施後、専門分野における業界関係者、卒業生、接続がある学校関係者らから組織される学校関係者評価委員会を開催。自己評価報告に基づき、委員に評価・意見を求めた。指摘された改善点について、あるいはその後の学校運営の進捗により必要となった課題について、改めて教務部で検討を行い、対応を進めている。

## 1. 開催日時

平成 30 年 8 月 30 日（金）14：00～15：30

## 2. 学校関係者評価委員

石曾根 剛 氏	企業等委員	神奈川新聞社 経営企画局長 兼 社長室長
梶原 健司 氏	校長	神奈川県立神奈川総合産業高等学校 校長
菊池 匡文 氏	企業等委員	横須賀商工会議所 専務理事
北川 貴和子 氏	企業等委員・卒業生	株式会社高陽印刷所 取締役
小峰 正仁 氏	企業等委員	株式会社メンバーズ 常務執行役員
斉藤 健二 氏	企業等委員・卒業生	株式会社 2083 代表取締役
高橋 正 氏	企業等委員	公益財団法人神奈川産業振興センター 事務局長

## 3. 出席教職員

三辻 訓	校長	高内 一平	教務課 課長補佐
今野 友行	教務部 部長	眞田 宏之	教務課 主任
村田 恒	教務課 課長	松尾 信	事業課 課長補佐
指澤 祐二	教務課 課長補佐	高山 和也	就職指導部 主任



#### 4. 自己評価報告と学校関係者評価・意見、及びその後の対応状況

平成29年4月1日より平成30年3月31日までの学校運営についての自己評価報告、委員の意見、ならびに意見を踏まえた対応は以下のとおり。

##### (1) 教育理念・目標

###### <報告>

- ・教育理念・目標は、「高度な技術力の習得・プレゼンテーション能力の育成・豊かな人間性の涵養」。
- ・学生に科目毎のシラバスを作成・配布。非常勤講師との意識統一、教育レベル安定のために、教育課程編成委員会、日々の授業後等において、周知徹底している。

###### <評価・意見>

(特になし)

###### <対応>

- ・前期後期で年2回、教育課程編成委員会を開催し、委員の意見を集約する。平成29年度は4月4日、9月22日に実施。平成30年度は4月4日、9月21日に実施予定。同日、非常勤講師ミーティングを実施。具体的な教授方法、進捗状況などを確認する。

##### (2) 学校運営

###### <報告>

- ・年度当初に事業計画・予算の策定。定期的な会議等により学校運営の進捗状況、課題等を全教職員が把握。
- ・学生数増に伴う業務増のため、教職員の増員が必要。平成30年度より2名増員。

###### <評価・意見>

- ・教員はもう少しの方がよいように思う。募集方法について知りたい。
- ・教員の増員が必要である。

###### <対応>

- ・平成30年度4月より2名の増員を図った。引続き、新卒者、中途採用で進める。専門分野を教授する教員と担任を分けて採用することでも進める。またティーチングアシスタントの採用も進める。
- ・平成30年度後期より1名増員、平成31年度4月にはさらに2名採用確定。

##### (3) 教育活動

###### (3)-1 カリキュラム (教育課程)

###### <報告>

- ・「職業実践専門課程」として「教育課程編成委員会」を設置。カリキュラム変更は、神奈川県に提出・承認。成績評価・単位認定は、シラバスに記載、学生へ周知。
- ・企業連携講座を積極的に実施。
- ・流行・トピック的な学習も必要と認識、選択授業「短期講座」を設定し、年度途中であっても授業内容を柔軟に追加している。
- ・教員が高校の見学会、学生募集イベント、入学面接試験等に参加・担当することで、課題設定や学習スピード等をカリキュラムに反映させるようにしている。

###### <評価・意見>

- ・学科改編は検討しているのか。必要に応じて変更も検討したほうがよい。

###### <対応>

- ・修業年限も含め、今、将来にわたり仕事の現場で必要なことを学べる学科に常におかなければならない。平成31年度より映像・CGに軸足をのいたデザイン系コースに改変する予定。

###### (3)-2 教員の質確保・研修等

###### <報告>

- ・教員の質については、学歴や業務経験、人物など総合的な基準を設けた採用。学生アンケート(授業評価)実施、グループ・個人目標設定して改善。
- ・教員の指導力育成のための外部セミナー、研修会等への参加義務付け。

###### <評価・意見>

- ・教員の指導力のレベルアップは必要。

#### <対応>

- ・平成 30 年度も引き続き、教員研修を実施する。

### (3)-3 インターンシップ・成果発表等

#### <報告>

- ・各学科で企業実習や企業との連携プロジェクトを積極的に実施し年々増加。
- ・コミュニケーション能力の育成は、グループワークやプロジェクト型学習を取り入れること、また外部講師による特別講座の実施等で向上を図っている。
- ・学生の主体性を育むために、学園祭実行委員会や各種イベントを支援。
- ・教育活動の公開については、前期・後期発表会、学外展を年間スケジュールに従い実施。

#### <評価・意見>

- ・プロジェクト学習は非常に評価している。横須賀のプロジェクトは、自らの学習としてだけでなく、成果が社会貢献となっている。
- ・プロジェクト学習の推進はよいが、マイナス面として個々のスキル向上に差が出ることがある。
- ・成果発表会も招待され出席した。もう少し評価を上げてよい。

#### <対応>

- ・プロジェクト学習については、かつてはリーダー、メンバーの役割に偏りが生じたり、打合せ時間が多くなり作品数が少なくなる弊害もあったが、別に科目「グループワーク」、「作品制作」を設定し現在は解消している。

## (4) 教育成果

### (4)-1 就職

#### <報告>

- ・就職指導部職員が、学科担当者、担任と連携して学生の就職指導を行っている。求人票や過去の就職活動のデータベース化などのシステムを構築。
- ・平成 29 年度卒業生の就職希望者の内定率は 97.1%。
- ・引き続き、インターンシップや正規の授業以外に特別授業を実施するなど弾力的、受験企業別の対応を行い、就職実績向上を図る。

#### <評価・意見>

(特になし)

#### <対応>

- ・学内での企業説明会をきっかけに採用に至るケースがあり、積極的に進めていく。

### (4)-2 退学

#### <報告>

- ・平成 29 年度の退学率は 6.02%。習熟度を加味したカリキュラム・教授法の構築、カウンセリング強化等の対策で目標には達していないものの抑えることができた。

#### <評価・意見>

- ・個別のカウンセリング、ミッションの共有などが防止に有効である。学生による先生評価を行っている学校もある。
- ・退学者防止策について知りたい。フェイストゥフェイスは重要だが、ネット活用など気軽な相談方法も検討するとよい。

#### <対応>

- ・現在も実施中であるが、引続き個別のカウンセリング、モチベーションアップ、学生アンケートを継続する。
- ・相談窓口のような看板をあげずに教員と学生が気軽にメールや LINE も活用している。

## (5) 学生支援

### <報告>

- ・メンタル面での不調を訴える学生の増加。本校ではカウンセラー1名を採用。ほかにも、犯罪・薬物・消費トラブルなどの指導、震災・災害発生時の対応などの指導。
- ・経済的事情により就学継続できない学生増は、奨学金利用のサポートの強化、独自の学費分割納入制度の導入・紹介もあり、改善している。
- ・保護者への情報提供については、年間スケジュールに従い、成績、出欠状況を送付。

- ・学生が主体的に取り組む学外での創作・演奏活動（作品販売、コンサート等）について、出展費用など支援している。

<評価・意見>

（特になし）

<対応>

- ・特にメンタルサポートには注力していく。オープンカウンセリング、新入生サポート日を設定実施。

**(6) 教育環境**

<報告>

- ・入学者全員に貸与するノート PC（作品制作ソフト）と併せて、教育設備・環境の整備に力を入れている。
- ・平成 29 年度は、デッサン教室移設、映像機器・VR 機器・楽器の更新実施。

<評価・意見>

（特になし）

<対応>

- ・平成 30 年度は、DTP 教室改変。液晶タブレット導入予定。

**(7) 学生募集**

<報告>

- ・年度当初に募集計画（募集人数、予算、広報媒体、イベント等）を定め、募集活動を行っている。平成 30 年度入学者は学科毎では増減あるが、全体では目標数を上回った。
- ・学校見学や説明会、体験入学等、入学を検討するイベントを数多く実施。入学後のミスマッチ（勘違い・思い込みによる入学）防止に努めている。

<評価・意見>

- ・ミスマッチ対策は非常に重要。

<対応>

- ・引き続き、オープンキャンパスメニューとして、体験入学、作品見学&学校説明会、進学資金説明会、特別講座を開催する。

**(8) 社会貢献**

<報告>

- ・神奈川県専修学校各種学校協会が主催する小中高校生向けにキャリア教育プログラムに参画。主に夏休みを利用した講座で、毎週、多くの小中高校生が参加している。
- ・地域の様々な活動が推進されるなか、本校の体育館などの設備開放が求められてきており、学校休業日に施設の貸し出しを行っている。
- ・未来のクリエイターである中高生を対象にイラストコンテストを主催している。なかには授業や部活動として取り組む高校もあり、評価されている。

<評価・意見>

（特になし）

<対応>

- ・平成 30 年度も引き続き、コンテストを開催する予定。

**(9) 財務**

<報告>

- ・入学者の確保に努め、入学者変動を抑えながら、収益事業を展開することで財政基盤の安定を図っている。
- ・人件費、広報費は、学園ガイドラインに従い、予算・収支計画を立案の上、執行しており、監査は、監査人により実施しており、体制が確立されている。

<評価・意見>

（特になし）

<対応>

- ・引き続き、学校経営の安定化に努める。

## (10) 法令等の遵守

### <報告>

- ・設置や運営に関わる法令は遵守しており、毎年5月には県の現況調査を受けている。
- ・「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、自己評価、学校関係者評価の体制を整備し、実施、およびその結果について、ホームページにて公開している。

### <評価・意見>

(特になし)

### <対応>

- ・引き続き、法令遵守していく。

以上